

## 遺跡見学会 「高松地域北部の遺跡群」

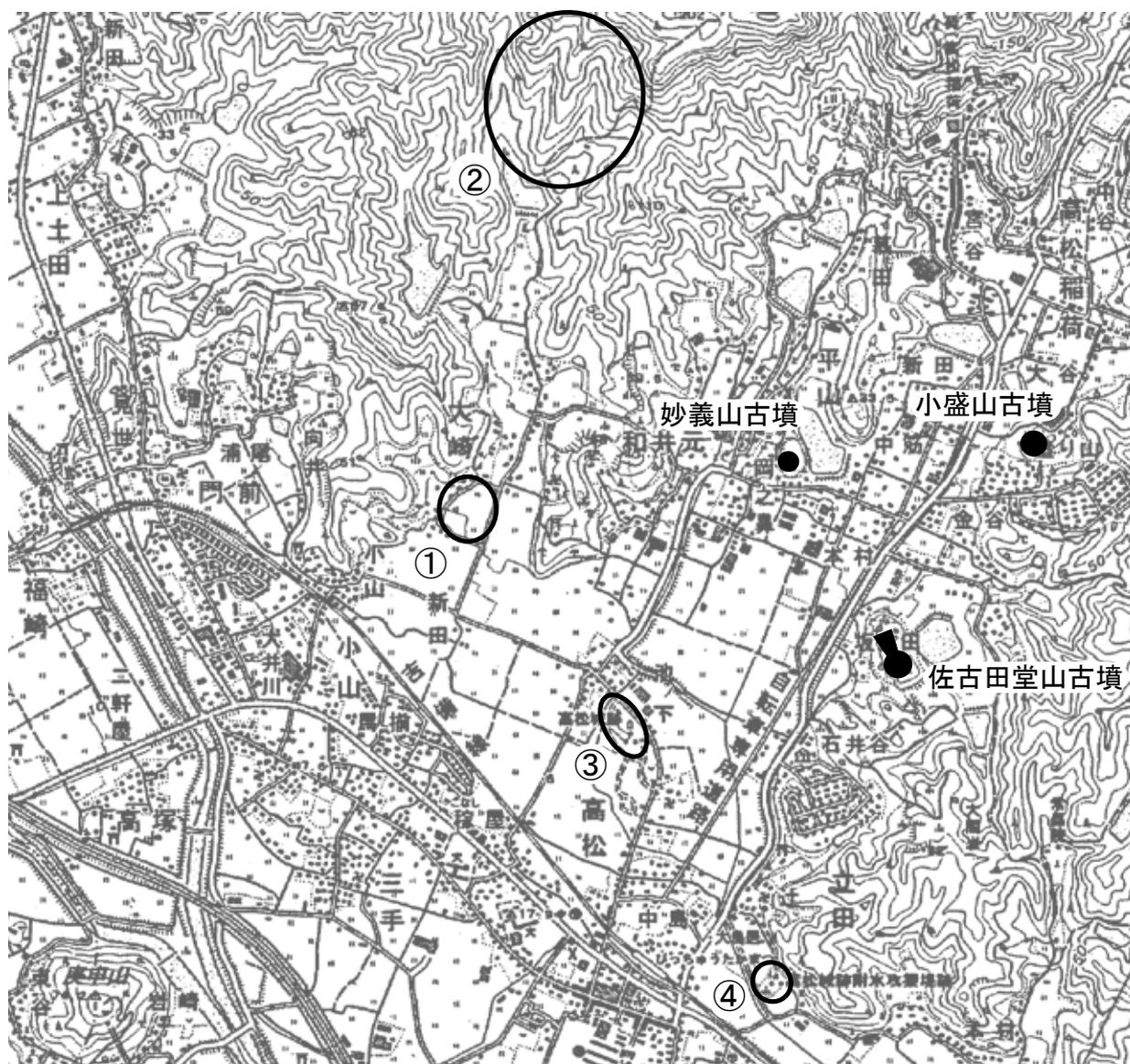
令和5年3月19日(日) 10:00～15:00

### 予定コース

(備中高松駅)→大崎廃寺→大崎古墳群→備中高松城跡→水攻築堤跡→(備中高松駅)

### ・地域の概要

足守川は岡山市域の西側を南北に流れ、岡山市北区足守から川入にかけて両岸には平野が広がっています。古来、キジの中核域とみられる足守川流域の平野において遺跡が数多く分布します。例として、大規模な集落遺跡である津寺遺跡、そして全国第4位の規模を誇る造山古墳などを挙げる事ができるでしょうか。それ以外にも、時代ごとに魅力あふれる遺跡が存在します。今回は高松地域の北部を歩いてめぐりながら、歴史の舞台として注目できるこの地の遺跡を順に紹介していきたいと思います。



遺跡の位置

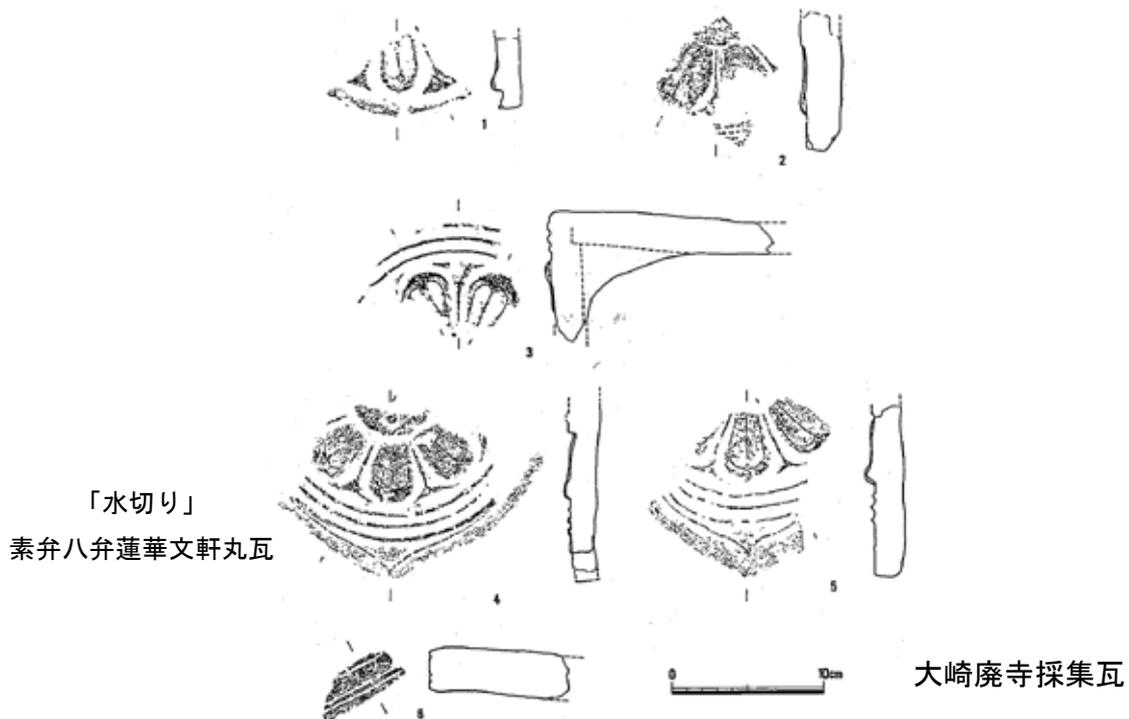
### ①大崎廃寺

岡山市北区大崎に位置する古代寺院です。丘陵部がせまる平地に立地しています。これまで発掘調査されたことはありませんが、現地では寺院建物の基壇と考えられる高まりが確認できます。また、その位置関係から、講堂・金堂・塔・中門といった主要な建物が一直線に並ぶ、「四天王寺式」と呼ばれる伽藍配置をとると推定されています。

大崎廃寺では、軒瓦が採集されています。瓦はその文様等から飛鳥時代にさかのぼる時期のものも含まれており、岡山市中区賞田廃寺、総社市秦原廃寺といった県内で最古級の古代寺院と同じように数えられるかもしれません。さらに、水切り瓦といった総社市の栢寺廃寺や広島県東部三次市の寺町廃寺と共通するデザインの特徴的な瓦の存在もあり、そこからは当時の有力者同士のつながりをうかがえます。



大崎廃寺伽藍配置推定図

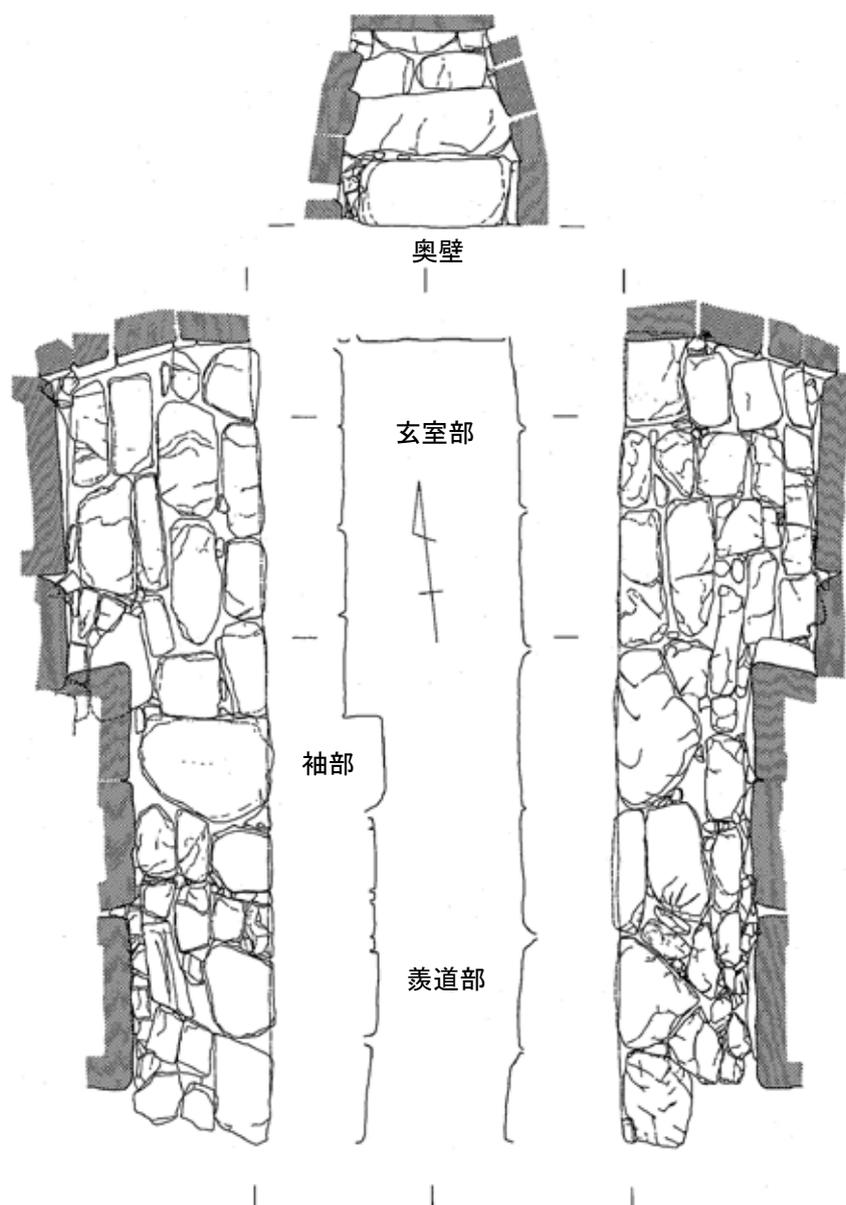


## ②大崎古墳群

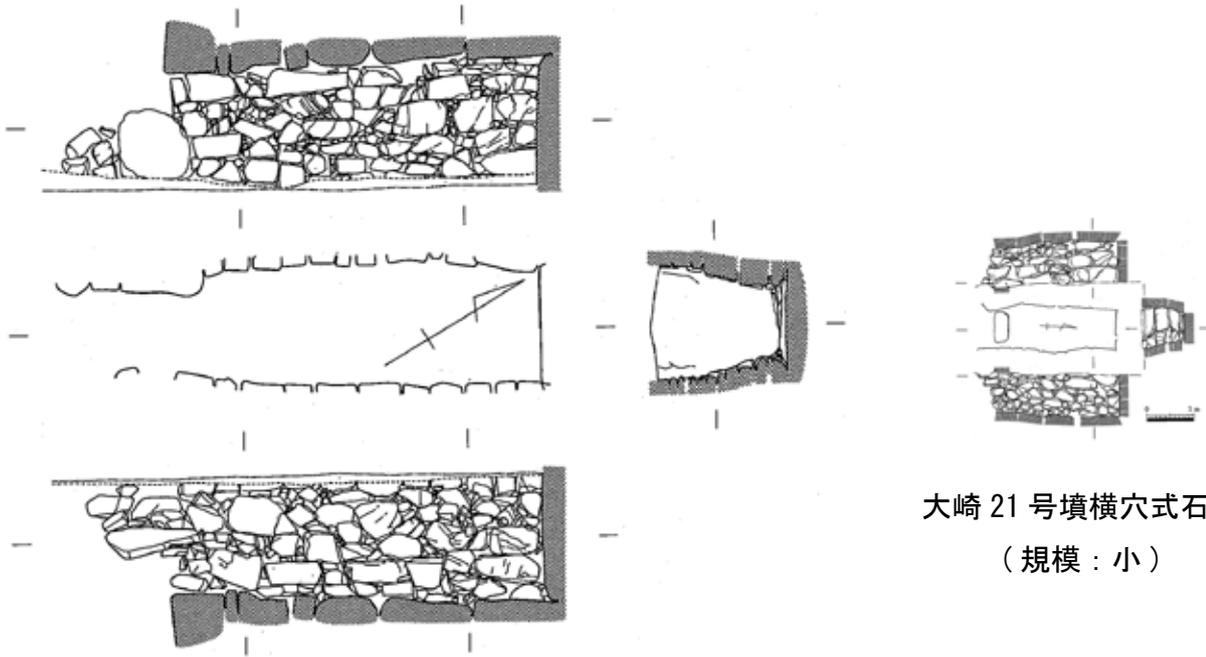
大崎廃寺の背後の丘陵には、古墳時代に数多くの古墳が築かれています。今回、見学する古墳はその中でも古墳時代後期から終末期にかけて、今から1400年前頃のものであります。

古墳群は過去に測量調査が行われ、その時の資料を基に様々な検討がなされています。その構成を概観してみますと、尾根上に石室全長が10m前後の規模の大きい古墳が分布しており、古墳群で中心となる人物の墓であったことが考えられます。次に、全長が6m前後の石室は周辺が築かれていますが、ある程度のまとまりをもつグループとして捉えられます。新しい時期の石室は谷部に集中しており、一人だけを葬る形の石室形態へと変化していきます。その時期は7世紀の初頭頃を境としており、県内でも前方後円墳の築造が停止する段階です。

古墳から寺院へというテーマは古くから議論されていますが、その過程を具体的に検証できる例は限られています。大崎古墳群をみると、大崎廃寺の北側に平野におりる形で独立墳が築かれています。墳形はおそらく方墳で、古墳群と寺をつなぐ具体的な手がかりとなります。また、こうした古墳群や古代寺院の造営の変遷を追っていきますと、その主体となる有力者の存在として、郡名にもあらわれる加夜氏との関わりを挙げることができます。

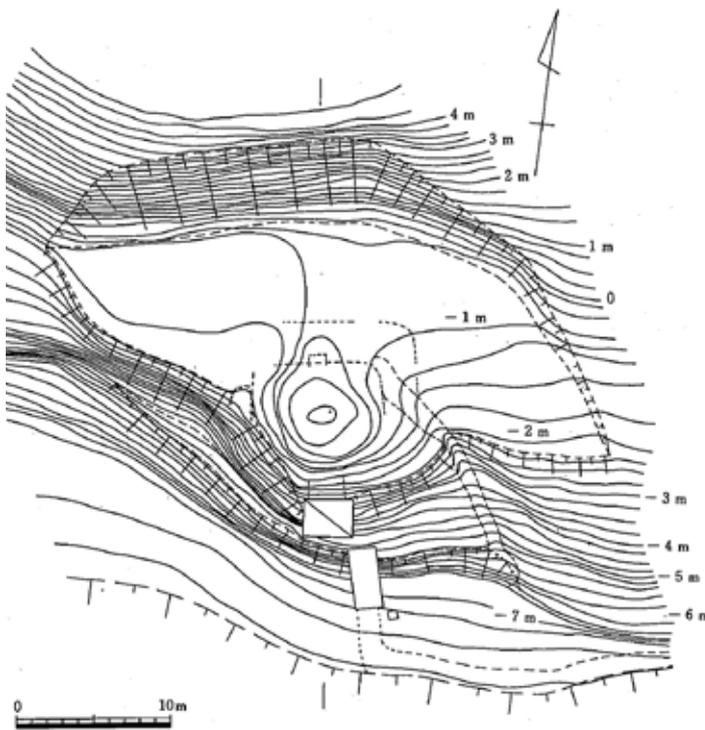


大崎3号墳横穴式石室（規模：大）

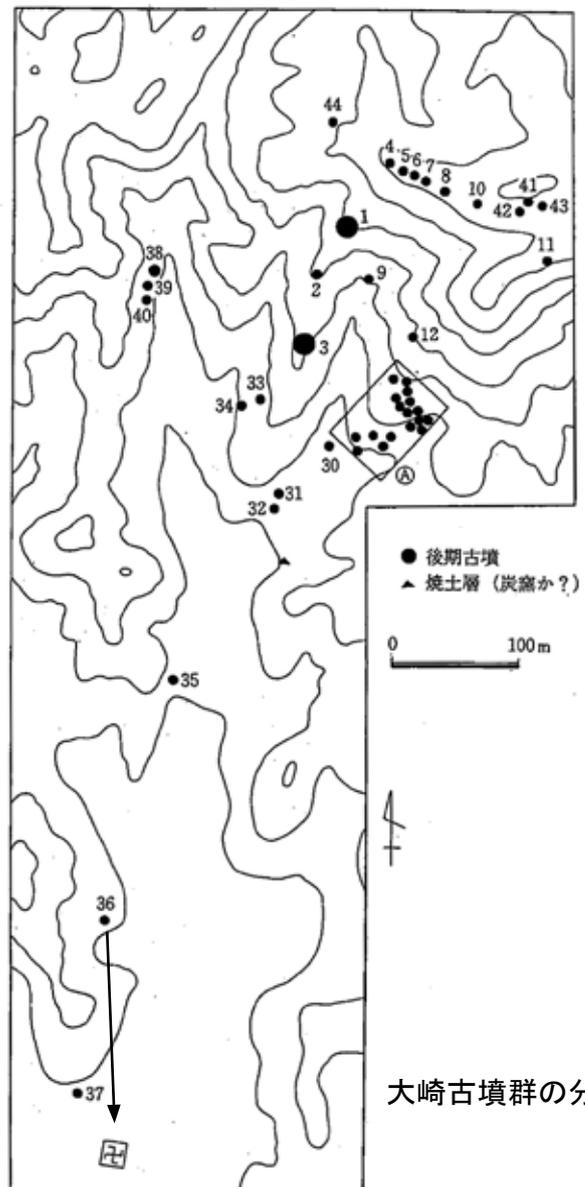


大崎 21 号墳横穴式石室  
(規模：小)

大崎 4 号墳横穴式石室 (規模：中)



大崎 36 号墳



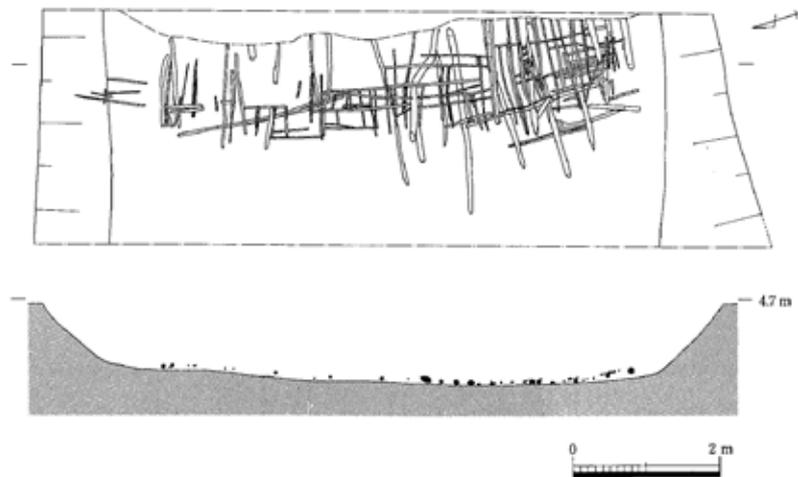
大崎古墳群の分布

### ③備中高松城跡

岡山市北区高松に位置する国指定史跡です。戦国時代末期の平城で、天正十年（1582）に羽柴秀吉により水攻めを受けた城として全国的に著名です。現在は本丸部分のみが、指定の対象となっています。二の丸、三の丸も公園として整備されており、三の丸における過去の発掘調査では、弥生時代にさかのぼる遺構や遺物が出土しています。城郭の遺構は、かつて人々が生活していた微高地とよばれる標高が比較的高くなる地形を利用して築かれました。備中高松城は関ヶ原の合戦後、花房氏の陣屋として利用されており、その時点で大きな改修がありました。現在我々のみる城跡の景観は、江戸時代の姿を伝えるものとなっています。



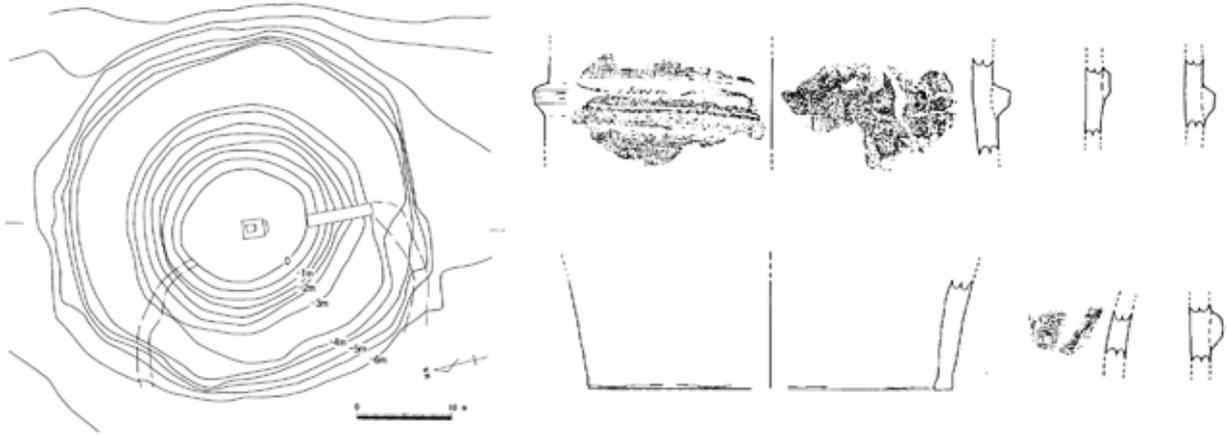
備中高松城推定城郭域



⑤地点溝状遺構（幅約12m）

### ○妙義山古墳

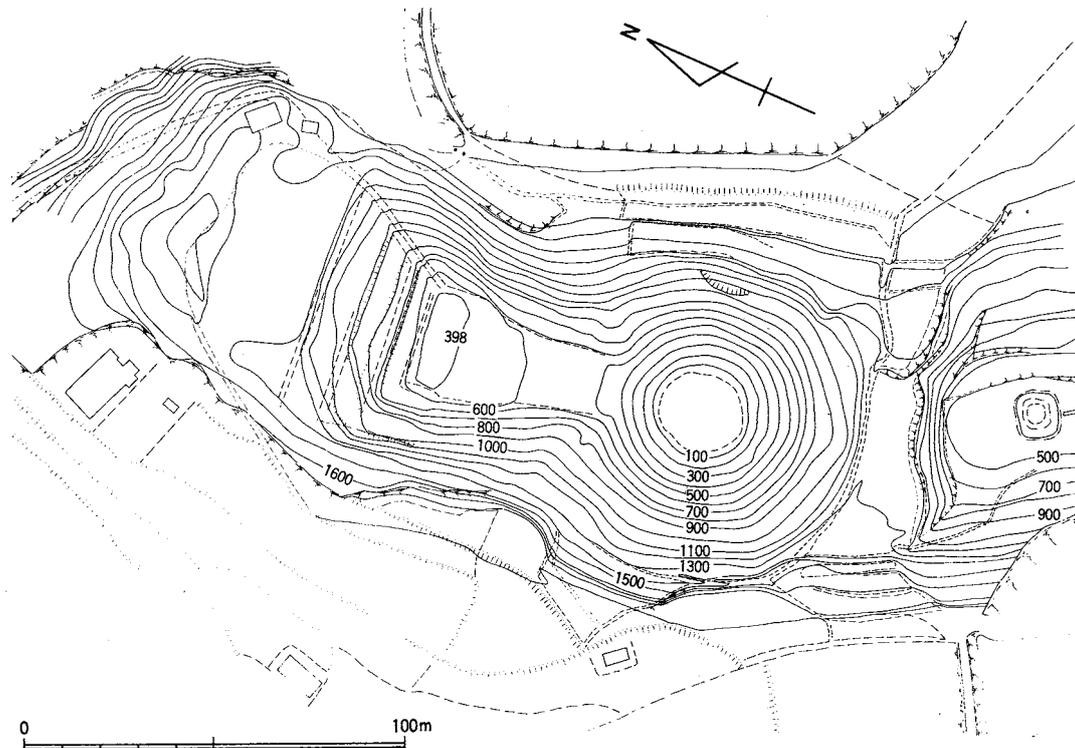
岡山市北区岡之鼻に位置し、直径が約40mを測る円墳です。2段の築成で、円墳としては規模が大きい部類に入ります。築かれた時期は、採集された埴輪片から推測する他ありませんが、5世紀中頃以降の時期を考えることができます。妙義山古墳周辺には径が約100mの巨大円墳として小盛山古墳が前期後半に、中期前半には全長150mの前方後円墳で佐古田堂山古墳が築かれており、小地域内で小盛山古墳→佐古田堂山古墳→妙義山古墳といった古墳の系列を捉えることができます。



妙義山古墳と採集埴輪

### ○佐古田堂山古墳

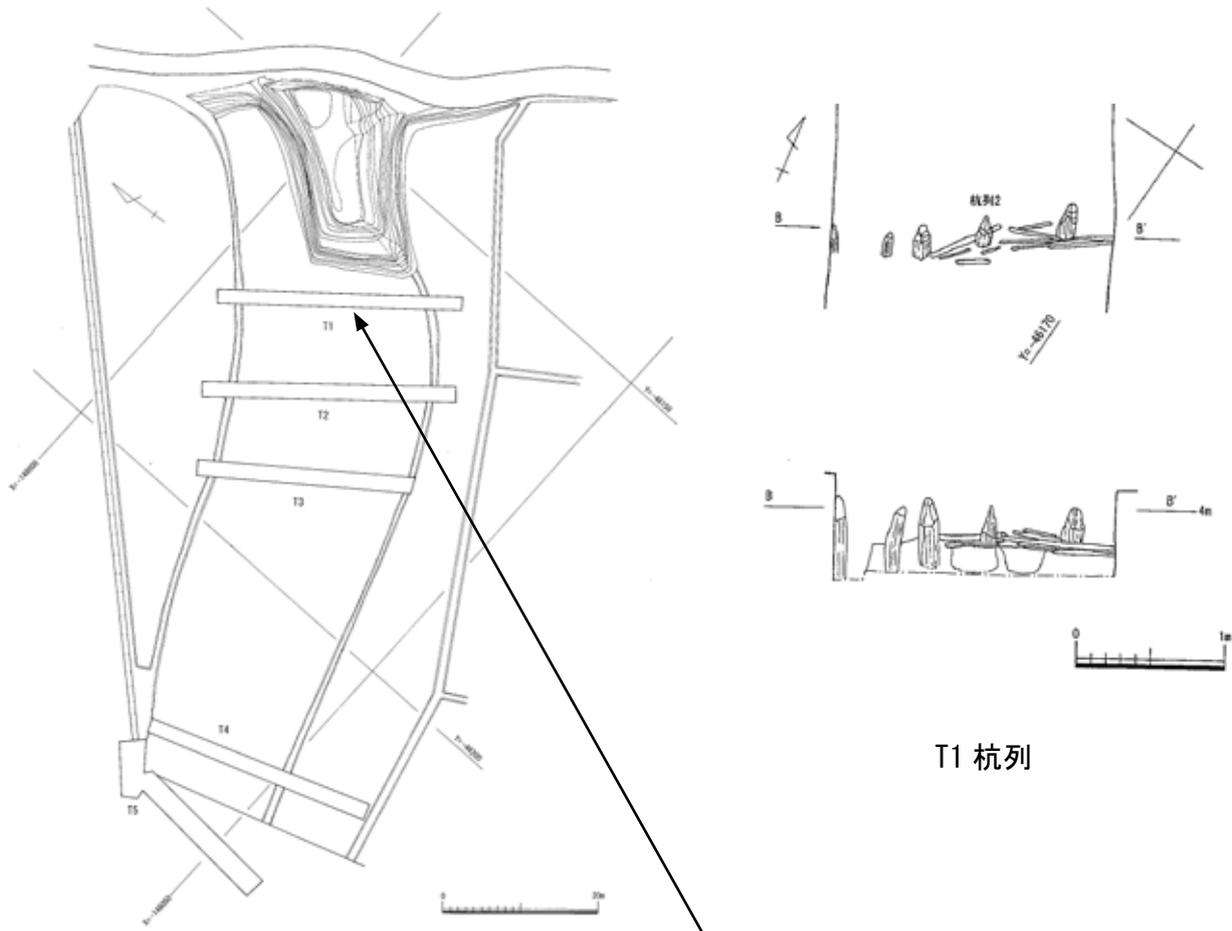
岡山市北区佐古田に位置する150mクラスの大型前方後円墳です。築成は2段で、現状で葺石や埴輪は確認できておりません。築造時期は、墳形の比較によるものとなりますが、造山古墳との時期的な関係が焦点となります。佐古田堂山古墳、造山古墳の一方が先行するの、また両者が並行するのにより、古墳時代中期、5世紀のキビと呼ばれる地域の組織的な編成に関して描ける歴史像が異なってきます。



佐古田堂山古墳

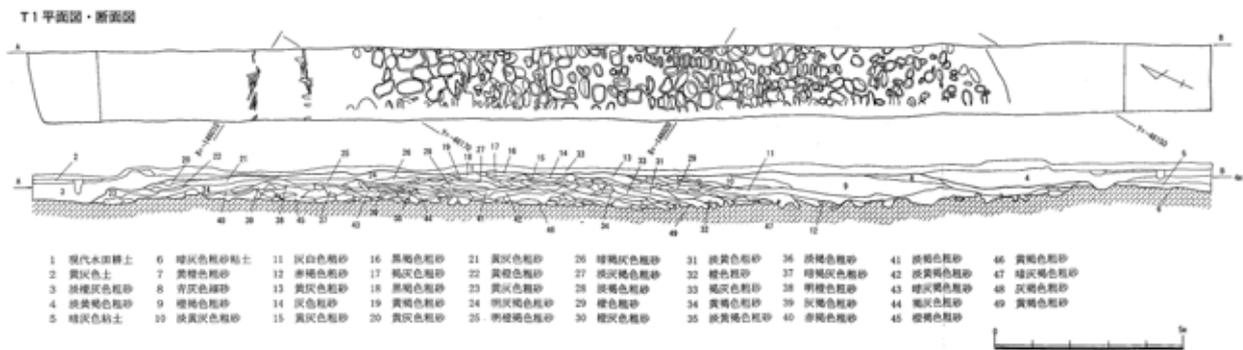
#### ④高松城水攻め築堤跡（蛙ヶ鼻築堤跡）

天正十年（1582）年の高松城水攻めに際して築かれた堤防の跡です。高松城の周囲に長さ2.6kmから3kmにわたり、幅12間、高さ4間の堤は12日間で完成したと言われます。実際の発掘調査では、造成された土層は幅26.5mにわたって検出されています。また、その際、築堤の基底部分や盛土が確認され、杭列や俵を置いた痕跡が見つかるなど、堤の規模や構造の多くを知ることができました。高さに関しては、現在の築堤跡の最高点が標高8.8mを測り、基底部分の標高は3.5m前後となることから、その比高差は5m程度と計算されます。



T1 杭列

築堤跡発掘調査配置図



T1 平面図・断面図

【参考文献】岡山市教育委員会 2008 『備中高松城水攻め築堤跡—高松城水攻め築堤公園建設に伴う確認調査—』